

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277100588		
法人名	社会福祉法人慶成会		
事業所名	グループホーム花みずき(泉館)		
所在地	静岡県浜松市西区大山町2882番地		
自己評価作成日	平成26年1月30日	評価結果市町村受理日	平成26年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2277100588-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2277100588-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階
訪問調査日	平成26年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然に囲まれた広い敷地にゆったりと配置された3棟の平屋造りの建物が、「グループホーム花みずき」です。入居された方が自由にのびのびと暮らしていただけるように、健康と安全に配慮した援助をご提供させていただいています。また、入居されている方と職員が共に生活を楽しみ、暖かい雰囲気大切にしています。入居されている方にとっても、そのご家族にとっても、のんびりと寛げる”別荘”という感じで利用していただけることを目指しています。更に今年度は、花みずきの南側に新しく作った畑を利用して農作業を通じた地域交流を始めました。立地環境の利点を活かして、地域社会との繋がりを大切にしたい”ホッとできる”施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日本家屋に和の玄関と庭をもつ仲良しご近所が3軒(ユニット)建ち並び、庭先の紅いざんかが風に揺れるなか、お地蔵さんが笑顔で迎えてくれる事業所です。多種多様な福祉サービスが集積していますが周辺に住宅がほとんどなく、“地域とのつきあい、が長年の課題でした。これまでの準備が実り、本年度からは敷地南側に作った畑で農作業を通して地域交流への道が開かれています。また、毎月目標を立てマネジメントサイクルにのせて見直しを行い、実現力を高めることで職員の自発性を養うという新たな取組みもあり、来年度のさらなる成果が楽しみとなり膨らみます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「やさしく、ゆったり、よりそって」という法人の理念の下に、グループホームの使命が果たされる様に経営方針を決め、管理者と職員が共通認識に立って実践につなげていけるように取り組んでいる。	毎月のケア会議の前にクレドを読み上げています。理念は求人募集をはじめ至るところに示してあり、「やさしく、ゆったり、よりそった介護がしたい」との希望者が働いていることが実践に大いに反映しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の保育園、中学校、老人クラブとの定期的な交流の機会はあるが、日常的な交流は出来ていない。法人内の他の事業所とは日常的に連携を取り、利用者の交流に繋げている。	畑を通じた地域交流が始まり、植つけから収穫祭、年長児との芋掘りは利用者も大喜びでした。老人クラブの皆さんが気にして立ち寄ってくださり、「サツマイモ植えたら？」と声が届いて、畑の手ごたえを充分感じています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人が主催して行っている地域交流事業に参加することを通して、事業所の役割を活かした地域貢献を行っている。今年度は、9月の介護者教室で「認知症の予防」の話をした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は近隣のグループホーム管理者も委員に加えて、年間計画を立てて定期的に開催している。また、利用者の日常の様子を毎回スライド上映で伝え、話し合いを行っている。	行政、地域包括支援センター、地域事業所施設長、民生委員、法人理事と顔ぶれが豊富で、定期開催が叶っています。すべての人が揃うのはなかなか難しい状況にありますが、家族は輪番で必ず参加があります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員として区役所の職員に参加していただき連携を取っている。また、浜松市介護サービス事業者連絡協議会の理事として、浜松市との連携を取っている。	管理者が福祉に係る公的な役務を歴任していることもあり、日頃から行政との連携が図られています。法人では介護教室を開催して、事業所からも講師として出向き、地域密着型としての役割を果たしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除に関するマニュアルを置き、研修への参加の機会を作り、職員への教育を行っている。また、ケア会議等を通して身体拘束が行われないように注意してケアに取り組んでいる。	「やさしく、ゆったり」の浸透でスピーチロックもみられず、現状身体拘束が必要な利用者もいません。葵館では職員に声を掛けずに外出する人のために、玄関にチャイムがあります。ただし「チャイムがその人への抑制にならないように」との共有認識はもっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新規採用職員へのオリエンテーションの中で「高齢者虐待防止法」についての教育を毎回行っている。また、法人内外の研修に参加することを通して継続的に学ぶ機会を持ち、日々のケアの中で防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内での職員研修に参加することにより、権利擁護に関して学ぶ機会を作っている。また、既に成年後見制度を利用している利用者が複数いるため、日々の支援を通して学びを得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約に関する説明を十分に行い、途中においても質問には丁寧に答えている。また、制度等の内容が変わった時には、年2回の家族会等を通して十分に説明し納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回行う家族会では、毎回ご意見やご要望を聞き運営に反映させている。また、運営推進会議へ委員として家族代表に参加していただいたり、家族面談等の場を使って積極的にご意見を聞くように努めている。	短冊に願い事を書く七夕、冬は初詣として家族会が続いています。ケアプランにも足を運んでもらえ、普段から話しやすい関係にあります。生活環境に及ぶことまで考えをもち、中庭の改築も家族意見で実現しました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケア会議やマネジメント会議を通して職員の意見や提案を聞くと共に、職員個別面談や意向調査等を通して積極的に意見を聞く機会を作っている。また、法人内ではアメーバ経営により職員の意見が法人経営に反映されている。	会議のほかトップに直接届く意向調査や個別面談と、進言の機会がふんだんにあります。夜勤体制と体調の具合から異動を申し出た職員が特養に移った例もあり、職員希望が叶いやすい体制が覗えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課の評価と個別面談を行い、更に年1回職員の意向調査を行うことにより、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体研修として毎月1回職員研修を行うと共に、事業所毎では積極的に法人外の研修参加の機会を作っている。また、法人として職員のキャリアアップ研修を毎年実施したり、介護福祉士取得のための支援にも力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が、浜松市介護サービス事業者連絡協議会と県グループホーム連絡協議会の理事を務めていることもあり、同業者と交流する機会を積極的に企画し、職員に参加を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前面接に伺い、本人に会って話をし不安な事や困っている事などを聴くようにしている。入所後は事前情報を基に、本人の様子や言動に気を配り、声かけをしながら関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の相談及び入所面接や入所手続き時などに、家族の要望や不安に思っていること等をしっかりと聴き信頼関係に努めている。また、入所後も近況報告や家族面談を通して信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内事業所が連携を取りながら総合的に地域のニーズに応える体制をとっているため、相談の段階でその時に必要なサービスの利用が出来るように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意な事や昔から行ってきていた家事を、無理せず出来る範囲で持っている力を発揮していただき、職員と楽しみながら出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面接時に最近の生活や健康の状態報告を行い、必要に応じた電話報告もしている。家族への連絡を密にすることで家族が相談しやすい環境作りを心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出、外泊等を自由にいただき、家族や馴染みの知人の訪問も心おきなく来ていただけるようにしている。電話の取り次ぎや年賀状の作成など馴染みの関係が継続できるよう支援している。	年賀状支援は訪問につながったこともあり、暑中見舞い共々現在も継続されています。遠方の家族や親戚が本人の居室に泊まることもあり、ユニット全体で歓迎しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等を利用して全員が顔を合わせて楽しめる機会を設けて、入居者同士が上手く関わられるように必要に応じて職員が間に入り関わりの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、移られた先の施設と情報交換を行ったり、様子を見に行くなどしている。必要に応じて家族の相談や要望を聞き、経過をフォローするように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中での会話、行動から入居者が希望している生活や要望を把握するよう努めている。困難な場合でも言動から思いを汲み取り職員間で検討、共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の時に家族にセンター方式のアセスメントを書きいただき、その情報を日々のケアに活かしている。また、折に触れて本人や家族から話を聞き、その人を理解するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェックで身体の状態を記録している。日常のケア、活動内容の様子を記録、申し送りをして変化や発見を職員間で情報共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、医師、看護師等の意見を聞き必要に応じて話し合いを行い、それらに基づいて介護計画を作成している。新たなニーズや変更があった場合も各関係者の意見を参考にしている。	本年から看護師がケアマネージャーの役割を兼務し、新たな視点も生まれています。ケアプラン作成の時間を予め設けることを昨年度の目標としましたが、現場最優先のなか難しく、その点は一昨年と変化していません。	プラン作成のトレーニングがさらに継続していくことを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者に対する日々のケアの様子や気付いた事等を日誌や個別記録、申し送りノートに記入して職員間で情報の共有をしている。また、ケア会議等で介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員だけではできない事は、家族やボランティアの協力も得ながら実現出来るように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人会のボランティア、保育園児との交流で日常生活に新しく楽しみができています。法人内の演奏会や舞踊会、地域の施設の夏まつりに参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望により、掛かり付け医師が月2回の定期往診と必要に応じて臨時往診に來られ、その都度指示をもらっている。また、必要に応じて専門の病院にも受診している。	年々変更され、現在は全ての利用者が協力医となりました。月2回の往診にはケアマネージャーである看護師と職員が立ち合い、記録もとっています。隣接してクリニックが建つ予定もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に利用者の状態報告や相談をし、必要に応じて受診や医師への連絡、指示を仰ぎ適切な対応がとれるよう24時間相談体制がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には介護サマリーを提供し生活状況などを詳しく伝えている。入院中のお見舞いに伺い入居者、家族が安心して療養出来る言葉かけや家族や病院関係者との情報交換や相談に努めスムーズな退院、帰所後の適切なケアに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状況の変化に応じて、早い段階からかかりつけ医師、看護師との連携を取り、家族の意向の確認や協力要請の話し合いを行っている。その結果により方針を定めて職員間で意思の共有を図っている。	医療行為が必要ではないことや、家族の協力が得られるかといった事柄がクリアされれば看取りに取組む体制にあります。職員のメンタルケアも鑑み、重度化した場合は利用者個人仕様の看取りマニュアルを作成しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修に参加して応急手当や初期対応を学んでいる。緊急時対応マニュアルを設置し、実際に急変があった時には会議で職員全員に周知、対応の検討をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した避難訓練を年3回実施すると共に、法人で行う災害対策の研修に参加している。職員の入れ替わりがあるため十分とは言えないが、職員教育を継続的にしている。しかし、地域との協力体制までは築けていない。	火災には人為的な連絡ナシで消防署が5分で駆けつけるシステムも備え、法定訓練が実施されています。運営推進会議では貴重なアドバイスを得ていて、自宅に戻った職員連絡については課題が明瞭となっています。	課題が明確になっていることについては、早期に着手することを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の尊厳と人格を尊重して、適切な言葉で丁寧に優しく声かけするよう心がけている。	呼称は「～さん」、敬語がルールです。また「汚物は新聞紙にくるんで」「トイレの消耗品は扉のある棚へ」は徹底されています。墓館と泉館は中庭に洗濯物を干していますが、「下着は見えない場所へ」と配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自分の思いや希望を言いやすい環境を作り、なんでも話せるような信頼関係を築くよう努めている。また、希望が言いやすいような問いかけを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人、一人に対しその人のペースや希望を大切にしている。ADL低下や認知症の重度化などで要望等表現が難しくなっているが、出来るだけその希望が叶えられるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者と一緒に楽しみながら季節に合った服を選び、「良く似合う、素敵」などの声かけをしてお洒落を楽しんでいる。また、毎朝スキンケアをする入居者に必要な支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者それぞれの意思を尊重して食事の準備や片付けを一緒に行っている。入居者の食べたい物を聞いて食事レクをしたり、外食の機会を作って食事が楽しみとなるよう努めている。	セントラルキッチンで安全安心の食事が提供されつつも、準備から後片付けまで賑わいをもって行われています。隣の人の言葉を拾い拡げて笑いが起こることがごく自然に食事中も展開していることに驚きました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量、水分量を記録し身体状況に応じた量の調節や食事形態を変えている。バランス良く盛り付けて楽しみながら美味しく食事が出来るように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者その人の力に応じた口腔ケアを行い、磨き残しが無いように職員が確認している。また、月1回の歯科衛生指導と必要に応じた受診、薬剤による定期的な義歯洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄のパターンを記録し把握した上でさりげない声かけや誘導を行っている。その際にもプライドを傷つけないよう声かけの工夫をしている。なるべく布パンツで生活出来るよう時間をみてトイレ誘導をしている。	「ADL状態が低下しても容易にオムツにしない」との方針の下、トイレで行ってもらおう工夫しています。下着のなかに紙やパッドを敷きたい癖には、家族の経済的負担を考慮したオルを代替品としたこともあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のレクや体操などできるだけ体を動かすようにしている。牛乳や食物繊維を摂るなどの工夫をしてなるべく自然排便が出来るように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後から夕方にかけて利用者の気持ちが不安定になりやすいため、毎日午前中に入浴をすませ午後には職員と一緒に活動することが多い。夜間浴への移行は実施出来ない。	2日から3日をめやすに入浴してもらっていますが、「毎日入りたい」との希望にも応えています。泉館では、冬至の柚子湯など昔からの風習を続け、利用者に自然に親しむ入浴を味わってもらえています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその時の状況に応じて就寝していただいている。居室の温度、湿度、照明の調節等の環境を整えている。また定期的な布団干し、シーツ洗濯をして気持ち良く眠れるよう支援して、日中はなるべく活動的に過ごす心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回の往診時に薬剤師が付き添っており入居者一人、一人の配薬をしている。職員は処方薬を把握し誤って服用しないよう薬カードで確認している。また、用法、用量、副作用等の理解が出来るよう一人、一人の服薬ファイルを作っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事、趣味、買い物、散歩など楽しみや気分転換になることを日常積極的に取り入れる事で生活のハリになるよう努めている。また、家族との外出や外泊も大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望を聞きドライブや買い物など出掛ける機会を多く作るようにしている。また、家族にも協力していただき、できるだけ本人の希望が叶えられるように努めている。	初詣は家族も誘い、外食も楽しみとして帰ってきます。桜、紫陽花、薔薇、木蓮、紅葉と、時節の花ドライブは頻回に実施され、また中庭での洗濯干し、玄関前のベンチでの外気浴、お地蔵さんへのお参りもあり、元気への源泉となっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者本人の買い物をした場合でも、職員が預かっている本人の小遣いから支払いをしてしまうことが多い。小さな買い物や理美容代等の支払う機会を利用していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状や暑中見舞いが出せるように支援している。また、利用者からの希望に応じて電話を掛ける支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内に利用者の混乱を招く様な物が無いように環境を整え、常に清掃をして清潔に努めている。季節を感じられる花や飾りつけをして家庭的な雰囲気の中で心地良く過ごしていただけるよう努めている。	食器洗いにエプロンがけで励む利用者もいて、準備から後片付けまで皆で行う習慣のためか、家庭の匂いを感じられます。利用者が花札をみたくて制作した張り絵には「泉館」とあり愛着が伝わります。ベンチや椅子を置き、居場所づくりへの配慮があります。	中庭には葵館は緑、幸館は彩りの花がありました。泉館の中庭もできる範囲で変化していくことを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の椅子や玄関先と中庭のベンチ、居間の掘ごたつ等を配置し、居場所作りの工夫をしている。また、利用者がそれぞれ思い思いに過ごせる様に支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の利用については特に制限をしていない、入居者、家族の希望に応じた居室作りが可能となっている。それぞれの居室には馴染みの物や家具が置かれ、居心地の良い空間が作られている。	居室ドアの写真は外部の目からも明らかに直近のものとなり、また大きく整えられていて、職員の心配りの高さが覗えます。大きな鏡台には化粧クリームやブラシが置かれ、落ち着いた暮らしが伝わります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が少しでも自立した生活が出来るように、トイレや居室入口には分かりやすい様に表示をしている。また、職員が身近で気配り、目配り、声かけをして自立した生活が安全に送れるように努めている。		